

あなたの知らない税

赤磐市立桜が丘中学校3年 安東 美藍

「人の役に立ちたい」そう思うのは私だけでしょうか？多くの人が困っている人がいたら助けたい、将来は人の役に立つ仕事をしたいと思ったことが一度はあると思います。仕事をしている大人も同じです。やりがいを感じるのは仕事をして役に立ち、感謝の言葉をもらうことという人がほとんどです。それにも関わらず、税金という言葉を知るとお金をとられてしまう、というイメージが真っ先に湧き、あまり良いイメージを持つ人がいません。私もそうです。その原因は、私のように税金が人の役に立つ重要なものだと知らないからだと思いました。

まず税金は、私たちの身近だと学校で多く使われています。例えば、私たちが使っている教科書やパソコン、体育用具などの備品、また校舎を建てるお金にも税金が使われています。このように、みんなが平等に教育を受けられるように税金が使われています。私は身近なものにも税金が使われていることを知り、あたりまえに通っていた学校や使っていた物はあたりまえではないと実感しました。それと同時に、感謝の気持ちを忘れてはいけないと思いました。

他にも税金は日本だけでなく、世界中の人々のためにも使われています。日本は苦しみ困っている人たちが多くいる国を助けるためにお金を貸しています。それだけでなく、ダムや道路、病院を建てたり、病院で使う薬や注射器などを送っています。私は、このように国際社会の平和を願って、世界の人々のために支援することは、すばらしいと感じました。また、税金がこんなにも重要な役割まで果たしていることに驚きました。

このように、税金を納めることも立派な人の役に立つ手段なのです。「人の役に立ちたい」という人は多いのだから、税金の使い道について多くの人が学ぶべきだと私は考えます。税金を納めることで、実際に人が笑顔になっている様子が見られたり、感謝の言葉をもらうことはできません。だから、人は税金を納めることにためらいを感じてしまうのだと思います。そんなとき、税金の使い道について学んでいけば、自然と誰かの役に立っている様子が想像できるはずです。そうすればやりがいを感じ、税金を何のためらいもなく納められるでしょう。私は、これから買い物に行って商品を買ったときに、消費税が上乘せされても、「人の役に立ちたい」という思いで支払おうと思います。みなさんも、まずは誰にだって出来る税金を納めることから始めましょう。人の役に立つために。